

わが街で暮らす

諏訪市地域医療・介護連携推進センター

ライフドアすわの取り組み

95

みなさんは、「柿」にどのような思い出がありますか？甘柿、さわし柿、干し柿、熟し柿などありますがどれがお好みでしょうか？柿は、諏訪に暮らす私たちにとって「秋」を感じる身近なものの一つです。その柿が地域支えあいのご縁をつなぐ役割を担っていることをご存じでしょうか？今回は、

昨年より開始した「柿P作戦（柿もぎプロジェクト）」についてご紹介いたします。

柿P作戦のはじまりは、ある高齢者施設より「施設内のレクリエーションで干し柿を作りたいが提供してくれる人を知りませんか？」という相談からでした。それまで高齢者施設で柿を必要としているとは知りませんでした。そんな時、市内の高齢者サロン活動に伺った際「一年を重ねると柿もぎが大変」そのままにしておくとし、カラスやサルが来て困る」といった声を聞きました。柿が手に入らず困っている施設と柿もぎに困っている高齢者をつなぐことでお互いの困り事を解決できるのではと、考えました。さらに、全



国ニュースでは熊による被害も報道されており、市内の高齢者宅でも不安な夜を過ごされているのではないかと頭をよぎりました。早速、実施に向けて準備を開始しました。

令和6年は試験的にを行い市内6件の相談がありました。依頼者の中には「木を切ってしまうおうかと考えていたが、祖父が植えてくれた柿の木を切らずに済んだ」「子供のところはこの柿を食べるのが楽しみだった」など様々な物語をお聞きすることができました。また、柿もぎを実施した施設では職員だけでなく施設利用の方々も柿もぎに参加してくださいました。子供を思い出す「自分で採ると更に美味しく」と会話が弾

諏訪市地域医療・介護連携推進センター
(ライフドアすわ)
諏訪市社会福祉協議会

生活支援コーディネーター

しば た ひろ み
柴田 裕美

柿P^{ピー}作戦（柿もぎプロジェクト）

柿がつなぐ地域支えあいのご縁

む中での柿P作戦が行われていたのです。柿を頂いた施設ではその後レクリエーションで干し柿や柿ジャムを作り、紐を通した柿を依頼者宅へ届けた施設もあったようです。また、暮らしの中で柿を気にかけることが多くなったと住民の方々から声を頂きました。

今年柿P作戦2年目となり、協力施設も増え、個人の方もボランティアとして参加して下さっています。この取り組みは、他市町からの問い合わせもあり地域特性に応じた「地域支えあいの仕組み」として形を変えながら広がることを期待しています。桃栗三年柿八年と言われるように、すぐ実をつけてくれる果物ではありません。私たちが享受している柿は、先人たちが子や孫、その先の子孫



柿をもいでいる様子

をも思いやり種を植え、育ててきた恵です。時間をかけて実をつける柿は、ライフドアすわでも取り組んでいる地域包括ケアシステムにも似ているような気がします。お互い様の困りごに誰かが「気付き」「つなげる・つながる」ことで私たちは豊かな共生社会の実現へと一歩近づけるのかもしれない。来年の「柿P作戦（柿もぎプロジェクト）」柿がつなぐ地域支えあいのご縁では「関心を持つ」ことから皆さんにも参加してもらえと嬉しいです。

※生活支援コーディネーターとは、主に高齢者の方々が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる仕組みづくりや話し合いの場づくりを担っています。ライフドアすわ、諏訪市社会福祉協議会において地域の皆様や専門職の方々と相談、連携し活動しています。

次回は1月11日掲載予定